

特定非営利活動法人



ネパール・ミカの会

平成16年年末号 NO.25 12.12発行

NPO法人 ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 tel 042-791-0602

『ネパールの秋』 ==ミカの会の実がみのりつつありました==

NPO法人ネパール・ミカの会
理事長 齋藤 謹也

今秋は久しぶりの景色、大パノラマのヒマラヤ山脈に会えました。やっぱりすごかったです。さらにマウンテン・フライトでエヴェレストもしっかり見てきました。

11月3日からの一週間、ソロプチミスト町田一さつきの一行4名と共に、ルンビニ、ポカラ、カトマンドゥに行きました。中間調査組の加藤氏、青沼氏とは現地カトマンドゥ集合。ルンビニは町田一さつきと植草氏寄贈のシリ・マズワニ高校新設建設工事の視察。土台位かと思っていたところ、何と一階部分の壁が立ち上がっていました。嬉しくなって、町田一さつき組は、子ども達となわとびなどで遊びました。中学生の子ども達に「高校ができたなら進学したい人」と聞くと、ほとんどの子が手を挙げてくれました。これまた嬉しくなって、心が舞いあがりました。

ひろしま・祈りの石国際交流財団助成プロジェクトのシリ・アマリ小学校も同様な建設状況。ヌルブ・ラマ氏の頑張りが目の前に現れていました。きっと両校とも来春には完成すると確信します。植草さんの遺志にも答えられると思いました。残念ながら、タンセンは治安の事もあり、今回は断念。明春にタンセン地区の先生方に会えるのを楽しみにしましょう。

ポカラのマチャプチャレやアンナプルナもとても素晴らしく、さすが霊山。ゆっくりとゆっくりと浩然の気を養い、またナガルコットの丘でも久しぶりに連なる大雄峯の姿をみせてもらいました。段々畑の菜の花や桜の花。そして秋のなりものや蕎麦の花など、一挙に実り、花々は咲きみだれ、秋とはいえすばらしい景観でした。



やはり、これはヒマラヤの白い山々とコントラストの中で目にやきつく景観です。「一見に如かず」という言葉がありますが、この景色をみていただく人を一人でも増やしたいものです。

今回の旅の冒頭、パドマ・カニヤ・ビディカシャ女子校での山口会長によるフラワーアレンジメントに喜ぶ女子学生たちの表情から始まって、最終日のカトマンドゥ旧王宮前広場近くの大通りでの爆弾さわぎまで様々なネパールの顔をみせてくれた旅。ラマさんの日本語学校40周年記念とモティさんのお母さんの手術費用もミカの会から出費させて頂きました。

いろいろあっても、やっぱりネパールは変化に富み、美しく楽しいですね。いつ行っても、そっくり丸ごと大好きなネパールです。

『ネパールを訪問して』

国際ソロプチミスト町田一さつき
会長 山口 美知子

私達国際ソロプチミスト町田一さつきは女性の人権と地位向上をめざす国際的なボランティア組織です。今期は認証10周年を迎える事になりました。いろいろな方々に支えられ、ご協力を仰ぎながらここまで来る事が出来ました。記念事業をどのような内容にする事がさつきクラブらしいのか、年度始めに会合企画委員会で意見を出し合いました。

ミカの会の学校校舎建設を支援する事になったのは、9年前高原書店でバザーをし、ネパールの話をお聞きし、雨漏れのする校舎の屋根の修理代10万円を寄付させて頂いた事にさかのぼります。その後さつきクラブは家庭、仕事、奉仕活動と様々な活動を体験しながら、会員同志の親睦を重ねてまいりました。会員である銀座あけぼの取締役の植草澄子会員が病気で皆の願いも虚しく永眠されました。故植草会員のご家族からの浄財がネパールの子供達の為に寄付をされました事は大きなきっかけとなりました。さつきクラブもなにか供養をしながら、お役にたてる事は何だろうと考えていました。この度の高校、図書館建設の支援はこのようなご縁から話し合いの上わずかな金額ですが支援させて頂くことになりました。



今回のネパール訪問は現地での校舎建築と子供達の現状の視察が大きな目的であります。事前にネパールの国内事情お聞きしておりましたが、異文化、異宗教と平和な日本の恵まれた生活の中では想像もつかないものでした。子供達のキラキラした瞳と家族で助け合いながら生きている様子は現代に日本では見ることの出来ない環境だと思いました。

物質の豊かさに於いては比較もできませんが、人間は信仰心により内なる豊かさが備わって、特に子供達の表情、ライフスタイル等に大きな差がある事を感じ取る事が出来ました。

学校建設の必要性を以前より察知して、10校にならんとする支援に繋がり、現在も継続しているミカの会の会員の善意に感動いたしました。

雨が降ると勉強が出来ない環境の子供達には、校舎さえあれば字が読めるようになり、書けるようになり、本を沢山読む事ができれば・・・とマズワニ中学のブルーの制服を着て机に座っている子供達を見つめながら、祈るような気持ちで将来を考えた時は、胸が一杯になりました。

ネパール事務局のラマさんの存在も大きく、素晴らしい人達には素晴らしい人との出会いもあるのだと更に感動いたしました。パドゥマカニヤ女子校でのフラワーデザインのデモンストレーションでは日本語の表現も難しい内容もすぐに理解して通訳してくださり、私もネパールの植物に触れることができ嬉しく思いました。ゴビンダさんが日本から弟さんのサルビンダさんにメールで事前に連絡をとって花の手配をしてくださいました。

又元ネパール駐日大使ご家族と夕食を共にすることができ旅の思い出が増えました。改めてつつがなく良い旅が出来ました事は参加したさつき会員を代表して心より御礼申し上げます。

私の少ない体験の中から少し提案したい事があります。一つは日本の中学、高校生の学園生活をスライドにして、ネパールの同年代の子供達に見せる事はどうでしょうか？生徒会の運営、掃除当番、クラブ活動等です。

もう一つは、稲藁がうず高くつまれていましたが、その藁を使用して、日本のわらじの作り方を、子供、大人に覚えていただいて、自分のわらじぞうりが作れるようになると良いのではと思いました。今私はわらじの作り方に挑戦しています。

さつきクラブの継続的支援については、今後クラブの課題になると思います。

最後に齋藤理事長はじめ青沼、加藤さんにはわがままな私達に辛抱強く旅をエスコートして下さい有り難うございました。ヒマラヤ、エヴェレストの雄大な姿は目に美しく焼き付いています。

『平成16年度中間調査報告』

副理事長	加藤 誠一
理 事	青沼 義信

今年度の中間調査を11月1日出発11日帰国で実施した。

今年のネパールは雨期が非常に永かったことで、ルンビニ～タンセンの道路に崖崩れによる通行不能や、道路状況の悪化による車両転落事故が発生していること、治安に対する懸念があることなどからタンセン地区の訪問を断念せざるをえなくなり、ルンビニ地区中心の調査となってしまった。

また今回は、今まで利用していたロイヤルネパール航空の時間的遅れが日常化していることから、渡航経路の検討対象としてタイ航空によるバンコク経由での渡航を試みたため日程に余裕を持った。尚今回は、マズワニ高等学校建設にあたり図書室建設資金の援助をされた、国際ソロプチミスト町田一さつき山口会長をはじめとする4名の役員（以後ソロプチミスト）と、同行の齋藤理事長ほか2名の、同高等学校建設状況視察団と合流し行動することになり、中間調査に加えソロプチミストの方々にネパールの生活・教育などの実状を知っていただく良い機会ともなった。特に、パドウマ・カニヤ女子校では山口会長のフラワーアレンジメントデモンストラーションや、バレーボール、ナワトビなどで先生や生徒との交流を行ない親交を図っていたのが印象的だった。

1. 治安状況について：

マオイストの活動は、ダサイン祭り中は休戦状態だったようだが、祭りが終わってからは活発化し、カトマンドゥでは加藤副理事長がプレゼン用写真取材中に建物爆破を目撃されたほどである。9日訪問した日本大使館富田一等書記官によると、12月10日には各地でマオイストによるバンダ（ゼネスト）が行われる予定で、このバンダの前哨行動として連日のように宣伝活動や爆弾事件、軍事行動、ブラックアウトなどを行う情報が入っており、しばらくは予断を許さない状況にあるとのことであった。

また、ルンビニの各学校を見ても、昨年は朱色で書かれたマオイストの声明は一部の学校だけだったものが、今年はほとんどの学校に書かれていることから見ても、活動の活発化がうかがえた。

一日も早く安心して旅行が出来るネパールになってもらいたいものです。

2. 今年度建設校工事進捗状況について：

10月中旬現地ラマさんより、今年の雨期は例年になく永く着工が予定より遅れているとの連絡があり、中間調査時点では土台が出来ているぐらいかな？の認識だったが、案に相違した工事進捗状況に驚いてしまった。

これは、なんとか中間調査までに校舎の形を整えたいと言うラマさんの気持ちから、連日暗くなるまで時間を延長して工事をした結果であると聞き、ラマさんの一生懸命の誠意に心から感謝したい。

○シリ・アマリ小学校（「財団法人ひろしま・祈りの石国際交流財団」殿からの助成金を基に建設中）：

学校理事長・校長・教員（男2、女1）をはじめ村人約50人が集り歓迎され、学校理事長は歓迎と感謝の挨拶をされた。後日ラマさんを通じ感謝状が届いた。



・学校及び村人の要望により、当初設計の3教室1職員室を4教室に設計変更し工事中で、職員室は村の資金により建設する事になった。従って教室は既1教室と併せ5教室となる。

・設計変更後による工事は、土台・外壁・屋根はほぼ完了しており、1ヶ月のコンクリート乾燥待ちの状態、完成度は60%と思われた。完成は平成17年2月末日の予定との事である。

・シリ・アマリ小学校も上級生になる毎に通学者が減少しているが、校舎の完成により生徒の増加が期待されている。

- ・建設資金は鉄筋の値上がりがあるものの予算額145万円は超えない予定である。
- ・齋藤理事長・ソロプチミストの手で、生徒にノート・エンピツ・消しゴム・ビニール袋をプレゼント。
- ・学校敷地内に、会員の山下氏の資金援助により、廃棄した旧井戸の隣に新しく井戸を建設中であつた。最近井戸ポンプの盗難が多いので、テストケースとして井戸をレンガ小屋の中に入れ、扉をつけ鍵をかけることにしたもので、ここまでしなければならぬ人心の荒廃にやるせない思いがする。

○シリ・マズワニ高等学校・図書館（「植草三樹男」様からのご寄付及び「国際ソロプチミスト町田-さつき」殿からの助成金を基に建設中）：

村長・学校理事長・校長・先生・村人などの出迎えがあり、感謝の挨拶があつた。その後ラマさんを通じ感謝状が届いた。

・会報の今年夏号に掲載されたマズワニ高校の設計内容は、現地の要望から次のように一部変更することになり、変更後の仕様で工事が進められていた。

- ① 総2階建てとし、階段は内階段にする。従って1階と2階の右端に階段室（間口3m）を設ける。
- ② 1階は2教室1職員室階段室とし、職員室は中央でなく階段室の隣としドアはシングルドアとした。
- ③ 2階は図書館部分と実験室・階段室とする。



- ④ 当初設置予定の時計・スピーカーは盗難の恐れから設置せず、学校の看板にする。
- ・ 工事は前記仕様で進められており、1階外壁はレンガ積がほぼ完了し、階段室も階段部分が概ね出来上っており、コンクリートの乾燥待ちの状態で、完成率は30%程度と見られる。
 - ・ 建設用地の関係から校舎裏側が1mほど農地にはみ出す事となったが、中学校建設時と同様に地主からその部分の提供を受けることが出来た。
 - ・ 建設費は予算内と思われるが、鉄筋の値上りで多少オーバーの可能性も否定できないとの事である。
 - ・ 教育委員会に支払う供託金は全額村で出せる予定で、来年4月開校出来るよう努力すると約束。
 - ・ 入学者は他地域からの入学者も見込まれるので、50人くらいと思われる。
 - ・ 制服はシャツ・ズボン・ネクタイとし、入学直後（5月）に支給したい。
 - ・ 図書館管理は高校生に図書クラブを作ってもらい自主管理させる。と同時に清掃クラブも作り高校生としての自主性育成を提案した。
 - ・ 高校卒業後の進路は、男子：商売・公社の仕事etc. 女子：先生・縫い物・看護婦etc.との事であった。
 - ・ マズワニ村に小・中・高が揃ったことで、近隣のモデル校としての期待を強調した。

尚、マズワニ中学校では各教室を訪問、ソロプチミストのエンピツ・消しゴム・ビニール袋のプレゼントで交流。

3. 次期建設候補校について：

シリ・ジャナヒート小学校及びシリ・アマ中学校から校舎建設の請願書が提出された。

○シリ・ジャナヒート小学校：

スンディ小学校訪問の際校長が請願書を持参。スンディ小学校校長の口添えもあり現地視察を行った。

- ・ 場所：ドウビハワ村（スンディ小学校より北へ約20分。・道路状況悪く遠回りした・）
- ・ 現況：2教室大の校舎1棟あり4年・5年生が使用。1・2・3年生は道路向いの林の中での授業。
- ・ 現在の全校生徒数は男子165名女子145名（合計310名）で他校に比べ女子の比率が高い。
- ・ 要望は4教室1職員室で建設用地は500坪ぐらいとあると思われた。

○シリ・アマ中学校：

マズワニ保健センター訪問の際、村長の紹介で校長から請願書が提出されたが薄暮のため訪問できず。

- ・ 「現在4教室あるが、生徒数500名のため教室が不足しているので校舎の増築をお願いしたい」と言うもので、特に生徒の40%が女子であることを強調していた。

4. 校舎補修及び施設等の要望について：

○シリ・マズワニ小学校・校舎ひび割れ等補修状況：

- ・ ひび割れ部分はモルタルによる補修を終わり塗装を残すのみだが、塗装を補修部分のみにするか、校舎全体にするかを検討中である。外見上全体塗装すべきと思われる。
- ・ 窓枠破損部分も補修を要するので補修方法（溶接方法）を検討中とのことであった。

○シリ・スンディ小学校・職員室雨漏り、校舎のひび割れ補修状況：

- ・ 職員室の雨漏り及び校舎のひび割れは補修が済み塗装を残すのみとなっていた。校舎全体の塗装は、マオイストの声明文を消してしまう事になるので、慎重に対処してもらいたい。
- ・ 校長より校舎回りの柵の設置、机・椅子の導入について要望があり、請願書が提出された。

○シリ・パダリヤ小学校・校舎の雨漏り補修要請：

昨年も立ち寄り雨漏り修理の請願があった小学校であるが、昨年よりひどくなったようで古い校舎は教室として使えず物置となっていた。新しい方の校舎も多少の雨漏りが見られるとの事であった。

今回正式に請願書が提出された。

○ シリ・アディアリ小学校訪問：

土曜日のため休校だったが校長と会う事が出来た。柵と机・椅子の整備を要請された。

その他の既支援校は休日のため校舎のみの視察となってしまった。

尚、残念な事に会発足のきっかけであり、最初の支援先でもあるマホマデア小学校が8月に廃校になっていた。

生徒のほとんどは近隣のマダラサピパラ小学校に転校したとの事で訪問、エンピツなどをプレゼントし交流した。

5. 図書・機材支援について：

既支援校、特に今回訪問できなかったタンセン地区への図書支援は、現地リクエストなどについてラマさん一任でお願いした。また、ラマさんは理系校へは従来の顕微鏡や計測器機などが良いようだとの意見であった。

その他の支援校では、前述の以外には具体的な支援要請は無かった。

6. その他の事項：

- ・ 教員研修については、マオイスト問題が沈静化するまで様子を見ることにした。
- ・ 先に送った衣料支援品は12月にルンビニに持ち込み、配布先を見極めながら配布する。
尚、リサイクル品に対する課税（支援品でも）もあり、支援策に一考を要するものと思われた。
- ・ 会オリジナル民芸品の現地製造の件は、格好のカゴやナベ敷きが市販はされていないが作成されルンビニ聖地公園事務所に展示されており、会でデザインを指示すれば製造は可能である。
- ・ 写真展開催については、事前連絡により開催可能だが、ネパールの写真だけではなく日本を紹介するような写真が20～30点あったほうが良いとの意見だった。
- ・ 11月9日、現在ネパールで踊りや楽器の勉強をしている犬飼さん（ネパールソングートの会）のお世話で、サムンドラバンドのコンサートが開かれ参加。サムンドラのメンバーと再会親交を深めた。

・ 支援の旅バンコク経由ルートのメリット・デメリット：

メリット：①日程を自由に決められる。②発着時間がほぼ予定通り。③バンコク泊りで体が楽。④航空機が広くきれい。⑤成田～バンコクは日本人乗務員。⑥カトマンドゥ発着が日中で送迎のラマさんが楽。

デメリット：①日程的に今までより2日位多くなる。②帰途乗り継ぎに5時間の待ち合わせがある。③バンコクは夜間でも飛行機の発着があるのでホテルは空港より多少遠くなる。

・ 11月8日、前駐日ネパール大使で現在トリヴァン大学で教育制度などの研究をされているマテマさんご家族と夕食を共にし、さくらまつり等の思い出をまじえ懇談をした。

その中でルンビニの校舎不足の現状を説明しところ、驚いた様子で、国の制度の不備と低カーストに対する無関心さを感じておられたようだ。マテマ前大使の今後に注目したい。

ラマさんはもとより、空港でお世話になったスリジャナさん（ラマさんの生徒さん）、バザー用民芸品購入などで通訳をいただいた犬飼悦子さんに心から感謝します。

『コンサートを終えて』

事業担当副理事長 今村 旭



先日行われたコンサートに参加ご協力いただいた関係者の皆様に先ずは御礼申し上げます。

4月よりこの企画を進め、こうした公演を初めて手掛ける素人の私としまして、最初は何をどう事を運んだらよいか本当に手探りの状態で不安の大きな事業でした。

目的はミカの会の広報宣伝活動と、また、同時に収益をあげ、活動資金の一助にという欲の深いものでした。結果として、両方ともに所期の予想の通りとなり、終わってみれば、皆様に喜んでいただき、また、会の事業としての成功といっていよい評価を得られ有難いことと存じます。

今回は幸いに出演を快く引き受けてくれた演奏者のレイ・アルフォンソ・正田さんと解説の濱田滋郎さんのお二人が私の親しい友人であったことが大いに役立ち両氏の手助けにより、すべてが円滑に進んだことで、持つべきは友人とつくづく感じました。

ここで、両氏を紹介しておく、アルフォンソ・正田さんは30年以上もフォルクローレとラテンの音楽、特にアルゼンチンが生んだフォルクローレ界の巨匠・アタウアルパ・ユパンキに心酔し、その魂の世界を追い求め続ける大ヴェテランです。彼のギターとあの唄は、まさにアンデスの風を想わせ深い味わいのある極上のものだったのではないのでしょうか。

一方、濱田滋郎さんは音楽評論家として特にスペイン・ラテン部門においては右に出るものはいないという、この世界の第一人者です。ちなみに濱田さんの父親はあの有名な童話「泣いた赤鬼」の作者、濱田廣介です。

たった2時間の公演では味わい尽くせない千両役者なのですが、いずれ、またの機会に再登場してもらいたいくらいのお二人でした。

さて、公演を振り返ってみますと、会場の手配、宣伝、実際の運営の細部等々、いろいろなことを経験でき、とてもよい勉強になりました。特に苦勞をして、かつ、面白かったのは入場券の販売でありました。ミニコミのタウン誌にも掲載していただき、会の存在を広くアピールできたのも良いことでした。積極的に参加していただいた会員の方々が電話で多くの注文を入れてくれた時が一番嬉しく、残りの枚数がどんどん減っていくのが毎日楽しみでした。

電話が鳴るたびに‘あっ、注文かな？’と思ったものです。販売を始めて3週間でほとんどを売りつくし、最後は、当日券を含めて文字通り、‘満席完売’の188席を達成した時は、本当に、顔が自然に綻んでしまいました。今後、こうした企画の際には大いに役立つ体験だったといえると思います。もし、次の事業として、このような企画が再びされる時は、より



多くの会員に広く参加していただき音楽の楽しみを通して、仲間との交流を深める良い機会と捉えていただきたく、尚、一層の会を挙げてのご協力をお願いしたいと思います。
この稿をお借りして準備から完了までご支援をいただいた会員諸氏、関係者皆様に心から感謝申し上げます。

『2004年度イベントあれこれ』

事務局 和田泰子

例年のように秋には盛り沢山のイベントがありましたが、大盛況だったチャリティコンサートを最後に、今年の主なイベントも終わりました。今年度は町田さくら祭りに始まり、ボランティアセンターバザー、チャリティコンサート（サムンドラ）、栄通りフェスタ、横浜国際協力祭り、チャリティボウリング大会、相模原国際交流フェスティバル、職業能力開発総合大学校・学祭、まちだ国際ボランティア祭り夢広場、そして2回目のチャリティコンサート（ラテンとフォルクローレ）と一つ一つ取り組んできました。

どのイベントも大勢の会員の参加と協力そして会員外の方々のお力添えもあって、大きな成果と収入をあげることができました。年会費1000円のネパール・ミカの会にとって、会が主催するイベントや、あちこちで行われる各種イベントへの出店は、ネパールへの教育支援を続ける為の大きな収入源となっています。また今年は会のシンボルマーク・ミカ（眼）の入った素敵なテントも登場し、イベントを盛り上げてくれました。バザーではいつでもネパールの民芸品、チャ（ネパールミルクティ）、ネパール風ハッシュドポテト等がお待ちしておりますので、初めての会員さんも、どうぞ気軽にお顔を出して下さい。来年度のイベントも、決まり次第早めにお知らせいたします。

プレゼンテーションお披露目



ミカの会パソコン教室の教材として製作していたミカの会紹介プレゼンテーションが理事会承認後公開されました。

ボウリング大会、夢広場、チャリティコンサートなどで公開され賛助会員の獲得など効果を現しております。

ネパールの紹介、支援地区の紹介、学校建設、図書支援などのネパールでの活動に加え、国内でのイベント、組織などミカの会の内容が分かりやすくまとめられています。これからミカの会を援助して頂いている団体、企業などにも配布していく予定です。

完成したCDにはプレゼンテーションの他に最新のネパールスライドショーも編集されていますのでお楽しみ頂けると確信しています。希望者には実費でお分けいたしますのでご連絡下さい。

【編集後記】

7年ぶりのネパール。空港以外は余り変わったようには見えない。どうか変わらないで欲しい。こんな勝手な事を言いたくなるほどカトマンドゥは刺激的で、魅力に満ちていた。市内で爆発に遭遇したけれど、治安は心配していた程悪くはない。それでも日本人観光客の少なさには本当にビックリしました。ホテルでは英語ばかり。何事にも神経質で単一行動の日本人気質が良く分かります。ポカラの夜は緊張感に溢れていました。真っ暗な中での検問は結構緊張します。来年も行きたいよ〜ん。

S.K